熊本地震復興支援

講演会

武藤杜夫

元法務省沖縄少年院　法務教官
日本こどもみらい支援機構　代表

「なぜ、少年院で人生が変わるのか？」

日本中の問題児たちが集う、塀の中の学校
「少年院」を日本一の学校にする。
そんな破天荒な挑戦を続ける、
真っすぐな目をした一人の法務教官と出会った。
彼の目に映る青少年問題とは、
そして矯正教育とはいかなるものなのか？
彼は、どんな未来を見つめ、
どこへ向かおうとしているのか？

これは、彼と、非行少年たちとの、魂の交流の物語。
極限の現場を漂流した彼が、
幾千の笑顔と、幾千の涙の果てにたどりついた
「こたえ」とは……

2017 6.10 SAT

開場 12:30　開演 13:00　先着300席限定

《協力義援金1口》2,000円　学生 1,000円

本講演会に関するお問い合わせ
TEL 090-7309-4821（にしばし）

本講演会の収益は、熊本地震復興支援金として、益城町立益城中学校へ全額寄付させていただきます。

会場 大阪産業大学（本館1階 多目的ホール）
〒574-0013 大阪府大東市中垣内 3-1-1（駐車場あり）

主催　大阪産業大学体育会硬式野球部
後援　大阪産業大学学会 / 大東市教育委員会

「法務教官とは、どのようなご職業ですか」と尋ねられることがある。

僕自身よく分からないというのが本音だが、そう答えるのは間抜けなので「教師と心理カウンセラーと警察官を足して3で割ったような職業です」とお伝えすることにしている。

このように説明すると「真面目な人間」と決めつけられるが、そもそも少年時代の僕は、真面目どころか少年院にぶち込まれてもおかしくない荒れた生活を送っていた。先生に反発し、学校を拒絶し、髪を染めてボクシングジムに入り浸る、3年間の成績オール1の不良少年。それが、中学生時代の僕の姿だ。

「先生は、どうして先生になろうと思ったんですか」

少年院での、とあるカウンセリングの合間、生徒から質問され、真剣に考え込む僕がいた。

「僕は学校の先生が大嫌いだったから、自分がそばにいてほしかった先生になりたいのかもしれないね」

先日、沖縄県内の某中学校から講演会のお声掛けをいただいた。

対象は、生徒ではなく、同中学校の先生方。中学校にも行っていなかった僕が、中学校の教室で、中学校の先生を相手に講演会を行う。人生というものは、本当に不思議だ。

昔と全く変わらない学校の居心地の悪さに息がつまり、ふと教室の後方に目線を移したそのとき……

僕は見た。

最後列の席から教壇上の僕を見つめる、中学生時代の僕の姿を。

とても生意気そうで、それでいてどこか寂しそうな少年。

「君がそばにいてほしかった先生に、僕はなることができたかな」

僕の問い掛けに、少年は答えてくれない。

そのかわり、「自分も、先生みたいな先生になりたいな」と微笑んでくれる少年院の生徒が、今、僕の目の前にいる。

武藤杜夫「永遠の少年」より

武藤杜夫（むとう もりお）

1977年9月6日、東京都生まれ。中学生時代から非行が始まり、問題行動が深刻化。ボクシングジムに入り浸り、学校をボイコットしていたため、成績は3年間オール1。おちこぼれの烙印を押される。その後は、ヒッチハイクで全国を放浪するなど浮浪児同然の生活を送るが、教育者としての使命に目覚めると、一転、独学による猛勉強を開始。一発合格で法務省に採用される。2009年には、沖縄少年院の法務教官に着任。逆境から獲得した人間力で多くの非行少年を感化し、更生に導くなど、短期間でめざましい実績を上げる。マスコミの注目を集め、スーパー公務員として将来を嘱望されるが、2017年、幹部への昇任を固辞して突然辞職。同時に、教え子である少年院の卒業生らと「日本こどもみらい支援機構」を設立し、代表に就任する。現在は、沖縄全島を舞台に、非行を始め、不登校、ニート、ひきこもりなど様々な問題を抱える青少年と現場最前線で交流しているほか、講演活動、執筆活動などにも精力的に取り組んでおり、その活躍の場は全国へと広がっている。